

ロングアドベンチャー

8月23日(金) ~ 8月28日(水)

IN 兵庫県立宍和野高原野外教育センター、休暇村竹野海岸キャンプ場

	午前	午後	夜
1日目	施設に向けて出発	野外炊飯	振り返り
2日目	登山	登山 野外炊飯	振り返り
3日目	お楽しみ遠足	海遊び バーベキュー	花火、振り返り
4日目	野外炊飯 車にて移動	基地づくり 野外炊飯	振り返り
5日目	野外炊飯 宿題タイム	話し合い スタンプ練習	キャンドルファイヤー
6日目	施設清掃	施設を出発 解散式	

一日目： 全体集合場所の尼崎駅からは、車で現地へ向かいました。人数の少なさに驚いておられましたが、話をするうちにこれから始まるキャンプへの期待が膨らんでいった様子でした。途中の道の駅でお弁当を食べ、お昼過ぎに施設へ到着しました。キャンプ場に詳しいベテランメンバーを中心に荷物運搬やテント決めを行い、六日間生活する基盤を整えました。その後、野外炊飯場へ移動し、夕食作りを始めました。今日から始まる六日間のキャンプを自分達で進める為、係分けや作る手順など、全てを一から考えました。作業は想像以上にスムーズに進み、予定時間よりも早くカレーうどんが完成しました。しかしまだ一日目という事もあり、メンバー間のコミュニケーションがぎこちない場面も見られました。入浴後の振り返りタイムで自分の目標を決め、明日のプログラムを確認して就寝しました。



二日目： 八月とは思えない程、肌寒い朝でした。朝食のホットケーキを交代で焼いて食べ、お弁当箱に自分でおかずやおにぎりを詰めて、登山の準備をしました。この日は絶好の登山日和となり、施設を出た直後の道は日陰が少ない上り坂でした。暑さと終わりが見えない坂道に休憩が多くなり、弱音も聞こえ始めました。そんな下がり気味の雰囲気を変えてくれたのは、道中で見つけた虫達でした。虫を見つけると男女問わず立ち止まり、「これは〇〇だ!」、「連れて帰りたいな〜」と話しが盛り上がっていました。山道に入ると杖になるような長い木を見つけたり、より自然に近い道を全員一致で選び進んだり、自然を楽しみながら登りました。目的地である展望広場に到着し、「ヤッホー!」と大声で叫んだ後、捕まえたカエルの家を広場にあった大きな水たまりに作る遊びが始まりました。時間を忘れて熱中しており、発想力の豊かさから生まれる物語が面白かったです。下山も話題が尽きる事がなく、キャンプ場まで元気に戻ってきました。キャンプ場に着くなり、「虫かごを作りたい!」と言い、ハサミやテープを駆使してお弁当のパックを虫かごに変えていました。満足そうな表情で虫を入れ、休憩時間も眺めておられました。夕食はかまどで炊いたご飯を冷まし、巻き寿司を作りました。口いっぱい頬張りながら数種類の巻き寿司を食べました。片付け後、『今日一日で自分が変化した事』と『明日進みたい事』を紙に書きだし、発表しました。



三日目： 今年は『お楽しみ遠足』と題し、宍和野高原を飛び出して兵庫県の日本海側にある竹野海岸へ出掛けました。車内では歌を歌ったり、道中のコウノトリ但馬空港の飛行機に歓声を上げたり、終始賑やかでした。朝作ったおにぎらずを食べ、寝るまでの予定を細かく考えました。早く遊びたい気持ちが先走る時もありましたが、気付いたメンバーが話を戻し、丁寧に進行しておられました。予定が決まると、テント設営、着替え、海遊びとプログラムがテンポ良く進みました。海は透明度が高く、メンバーのテンションは最高潮でした。洞窟のようになっている場所を全員で探検したり、絶景をバックに写真を撮ったり、魚を捕まえようと潜ったり、開放的な海遊びを約二時間楽しみました。その後もバーベキューに花火と魅力的なプログラムが目白押しでした。全てのプログラムを満喫した疲れからか、寝袋に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。



四日目： 周りの物音を気にする事もなく、ぐっすり眠っておられました。疲れや眠さから動くスピードはゆっくりでしたが、朝食のホットサンド作りや荷物整理を行いました。朝食を食べ終えた頃からみんなの元気も出始め、笑い声が聞こえました。テントの撤収や台車を利用した荷物運搬も我先にと取り組み、竹野海岸を後にしました。兎野高原に戻り、昼食と休憩を挟み、基地づくりをしました。広いキャンプ場の中から自分達のイメージに合う場所を探す事に時間が掛かり、作る時間が少なくなってしまいました。みんなの総意である「ブランコを作りたい!」という意見を優先し、ブランコ作りをしました。時間ギリギリまで完成を目指し、なんとか完成しました。夕食は自分達でメニューや材料を考えた『ロールキャベツ』を作りました。キャベツで具を巻く作業に四苦八苦しておられましたが、試行錯誤し、見た目も味も満足のいくロールキャベツが出来上がりました。夜の振り返りでは、自分が苦手と感じる事をしっかりと言葉に表し、考えを深めておられました。



五日目： あっという間に五日目となりました。朝からキャンプファイヤーで披露するスタンプの事で頭がいっぱいという様子でした。夕方頃から本格的に雨が降るといふ予報が出ていた為、今夜の寝る場所をテントと集会室のどちらにするかという話し合いをしました。このキャンプでの約束事の一つである『全員が納得する話し合い』を目標に話しが進みました。キャンプ中様々な話し合いを重ねてきましたが、意見が大きく割れる事はありませんでした。しかし、今回の話し合いは30分、1時間と経過しても話が平行線でした。最後の夜だからという理由のテント派と、雨音や移動時に濡れる事を考慮した集会室派のそれぞれが色々な角度から意見を提案しますが、決まる雰囲気はなく、一旦保留として勉強タイムを先に行いました。時間を決めて個々の課題に取り組み、その後昼食を済ませました。昼食後も話し合いましたが、皆が納得する答えが出ず、就寝時間をタイムリミットとしてスタンプ練習に切り替えました。「リーダーは楽しみにしていて!」と、メンバーだけで劇のストーリーやセリフを考え、何度も練習しておられました。夕食前から降り出した雨の影響で屋内のキャンドルファイヤーに変更となりました。体育館に移動し、リーダーからのゲームとメンバーのスタンプ発表会を行いました。人数が少ないという心配を吹き飛ばすかのような盛り上がりを見せ、最後は劇中にも登場した『パプリカ』をみんなで踊り、幕を閉じました。そして、就寝前の話し合いで寝る場所が決まり、就寝時間までテントから楽しそうな声が聞こえてきました。

六日目： 最終日の朝はやる事が多いですが、リーダーの声掛けがなくても素早く片付けを終わらせておられました。朝食をお腹いっぱい食べ、備品の片付けや清掃を行いました。シーツや寝袋を畳み、テントや共有スペースを清掃した後は、全員が集合して食器や調理器具の最終チェックをしました。洗う、拭く、チェックする、という係に自然と分かれて進め、とても連携がとれていました。施設の方の点検を一発でクリアし、最後のプログラムである工作をしました。今回は焼き板に思い思いの絵や言葉をかき、メンバーとリーダーのサインを貰い、思い出を作品として残しました。兎野高原を出発し、道中にて昼食を済ませました。「ごちそうさまでした!」と大満足の表情で手を合わせ、尼崎駅へ戻ってきました。満面の笑みで記念撮影をし、別れを惜しみながら解散しました。

<キャンプ総括>

今年は参加者が非常に少なく、常に全員一緒に過ごしました。5分の4が『ロングアドベンチャー』経験者という事もあり、考える時間・楽しむ時間の切り替えがスムーズでした。また、いつでもどこでも楽しめるメンバーが揃っていた為、登山、海遊び、野外炊飯などのプログラムの魅力を自分達で増し、六日間笑顔が絶えませんでした。そして、今回のキャンプでの一番の山場は、五日目の話し合いでした。話し合いが停滞している訳ではなく、異なる意見をもつ友達に質問をしたり、集会室の中に簡易テントを建てるという斬新な提案があったり、「考える事が面倒になってない?」と核心を突く指摘をしたり、時間が経つにつれて一人一人が本音でぶつかっていました。何度も休憩を挟んで話した最後の結論は、「みんなで寝れるならいいか!」という一言でしたが、その一言がこのキャンプでどれだけ濃い時間を過ごせたかを物語っているようでした。メンバーの姿を六日間見続けて、キャンプの楽しみ方は無限大だと改めて感じました。とっても楽しい六日間をありがとう! (生本 ひろみ)